

□議員名：山田伸幸

1 藤田市長の4年間の総括

論点	藤田市長が目指す市政について、市民から「市長の顔が見えない」とか、「市政説明会に参加したが、市長が何をしたいかがよく分からなかった」、このような意見をきく。藤田市長が掲げるスマイルシティとはどういったものであるのか。
回答	まちづくりの基本は第二次基本計画に示している。スマイルシティは「ひとが輝き、活力に満ち、笑顔が広がる魅力あるまち」の姿を象徴的に示したものである。

論点	市長自身の考えではなく、自治基本条例に立ち返る必要があると思うがどうか。
回答	自治基本条例にのっとった形で、第二次総合計画、協創によるまちづくり推進指針も、その精神をしっかりと反映させた。具体的な施策は、前期基本計画に各部署の中で、全分野において、それが反映されている。

論点	会計年度任用職員が30分の時短が図られ、給料が月1万円も引き下げられた。去年はフルタイム化が図られ、今年度はパートタイム化されようとしている。一貫性のない人事方針ではないのか。
回答	このたびの労働条件の変更は、効率的な行財政運営を目指し、職員の勤務条件の見直しを検討する中で、各課へのヒアリングを行った結果、会計年度任用職員の業務量に応じた適切な勤務時間とした。

論点	県内では令和2年度からパートタイム化が実施されたが、本市はフルタイム化が図られた。令和3年度からパートタイム化がされようとしているのは、なぜか。
回答	本当は令和2年度からスタートすべきだったということは、私どもも深く反省はしている。その中で、1年間を見た中で、その会計年度任用職員の各課での業務量、前年度の量と比べても、なかなかあまり変わらないであろうというふうな判断をした中で実施した。

論点	今回のやり方は弱い立場の人を狙い撃ちにしたパワハラと思われるような一方的なやり方と思うがどうか。
回答	全国の様子は、90%がパート化と、また県内でも本市以外の12市が全てパート化ということの中で、本市の状況労働条件並びに給与関係については、「社会一般の情勢に適合するように、随時、適切な措置を講じなければならない。」という一条文がある。

論点	宇宙監視レーダーについて、レーダー電磁波が人体に影響しないと結論づけられるまで、市長は建設反対を表明すべきではないのか。
回答	当該施設の整備は山陽小野田市として政策ではなく、国の防衛政策であることから、意見を述べる立場にはない。市民の安全安心のため不安を解消するように、分かりやすく丁寧な説明会を一刻も早く開催するように、再度お願いをしたところである。今後のことは、防衛省から詳細な説明があった後に、安心安全について判断していきたい。

論点	強力なレーダー電磁波を人体が浴び続ければ深刻な被害が出るとの研究がある。市としては強力な電磁波を市民が浴び続けることについて研究などしてきたか。
回答	電磁波については総務省の電波防護指針を遵守しなければならず、その中で設計していると考えている。その基準も当該敷地内に収めるとしている。現在、実施設計をしているとのことなので、実施設計を待って、数値がその中にちゃんと収まるのかどうか、それを確認していきたい

論点	防衛省はイージス・アショア配備計画の中では、間違っただデータを示して計画中止に追い込まれている。防衛省の発表するデータを鵜呑みするのは危険である。
回答	イージス・アショアの件については、見解を述べることはない。あくまでも今回のレーダー基地については、基準に基づいた設計をしていただくようお願いをしている。説明をちゃんとできるように待っているところである。